

唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画第2回策定推進委員会 会議録(要旨)

○開催日時

令和5年7月25日(火) 午後2時00分～午後4時10分

○開催場所

唐津市役所大会議室(本庁4階)

○出席委員

松尾委員(会長)／山口(恭弘)委員／井田委員／内山委員／峯委員／大木委員／
谷口委員／松下委員／中村委員／坂田委員 ※名簿順

○資料

- (資料1)「福祉を考える会」実施概要
- (資料2)第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画の基本理念案
- (資料3)計画期間の見直し
- (資料4)第3期地域福祉計画進捗管理委員会からの意見

○内容(要旨)

<開会>

<会長あいさつ>

(会長)2回目の委員会である。忌憚ない意見をお願いしたい。先日の大雨で唐津は大きな被害を受けた。防災も地域福祉のうち。被災時の避難についても一度考えていく必要がある。我々にも増して担当部署の思いはより大きいと思う。近年は想定外のことが起こる。当委員会でも少し深く考えていく必要があるだろう。

<田中部長あいさつ>

(部長)大きな災害が唐津市を襲った。7月10日早朝の災害で3名の方が亡くなり、多くの方が被災した。消防、自衛隊に加え消防団員も多くが対応してくださった。7月14日、ボランティアセンターを立ち上げ、300名以上が災害ボランティアとして支援してくれている。半数以上が(奈良県など)市外から駆けつけてくれた人である。感謝申し上げたい。

<資料の確認>

<会議成立の確認>

委員17名中10名出席で会議成立となる

以降、会長により進行

<協議事項>

(1)福祉を考える会の開催結果について

資料1により事務局より説明

(会長) 第5回に私も参加した。時間が短く感じられるほどの良い時間だった。今後、参加していない人にこれらをどう伝えていくかが非常に大事。また、課題を抱えている当事者もこういった会にもっと参加され、意見が出るようになればより良い会になると思った。

【質疑】

(委員) これまでも策定委員会のほかにこういった会に出てきたが、今回の「考える会」は最も活発に意見が出たように思う。

(委員) 私も参加したが、「考える会」自体が、市民が参加して計画を作っていくという取り組みであると感じた。

(委員) この資料もわかりやすい。質問だが、前回までの考える会にも出て、今回は良かったと言われた委員さんがいたが、前回と比べてどのようなところが異なっていたのか。

(事務局) 前は第1回目の会から施策の方向性というものがまずあって、それに関連する課題、役割を話し合っていた。全5回の回数は同じだが、今回は施策の方向性ありきではなく、計画に盛り込むべき事項を各回に分け、それぞれテーマに設定して展開していった。

(事務局) 参加いただく方の選定では、若い方をより多く、現場の方などからも生の声を聴きたいので増やすようにした。内容も前回は踏襲するより新たに考えた。

(委員) 前は、柱が先に立っていてそれについて考える形。今回は、福祉分野ごとの分科会から始まっても、毎回、それをまたいで議論ができる形だった。

(会長) よい結果が得られ、次回へつながる良い会だったと思う。若い方の意見も積極的に非常に頼もしく感じた。

(2)地域福祉計画・地域福祉活動計画期間の見直しについて

資料3により事務局より説明

(事務局) 関連計画の3年サイクルに合わせて上位の地域福祉計画を6年サイクルにする自治体例は多い。本計画も5年間の計画期間を6年間に見直したい。

【質疑】

(意見・質問特になし)

資料2について事務局より補足説明

(事務局)「福祉を考える会」の参加者による基本理念の案である。次回の策定委員会では委員のみなさまにも基本理念を出していただくなど討議したいので今回の資料もお目通しいただきたい。

<10分休憩>

(休憩中、委員と事務局のやりとり。「福祉を考える会に出ている意見は、各課(福祉関連計画所管課)に伝えてるか?」

(3)第3期唐津市地域福祉計画の進捗管理(令和4年度)について

資料4について担当課より回答内容を説明

【説明及び質疑】

<(防災課)No15について説明>

(委員)七山地区の者です。今回の災害で、避難が少し遅れて公民館に行かれなかった、途中の橋を渡ることができなかった人がいる。橋の近くに避難所という意見も前々あったが、人員等の理由でそれは見送られたと聞いている。結局、公民館に行かれなかった避難者は体育館の床下のスペースで過ごすことになった。こういったことも踏まえて避難所の再考をいただきたい。

(防災課)百年に一度といわれるような災害が頻発する近年である。今のようなご意見を踏まえて検討したい。

(会長)防災マップには水が増えたときのリスクも記載があるのだから、それも使って避難場所の見直しを。

(委員)各地で災害が起こりうるが、一自治体での対応には限界もあるかと。我々は「佐賀災害支援プラットフォーム」を設置している。こういったことも活用いただけると良い。広域的な対応も併せて考えていかれるとよい。

(事務局)SPF(佐賀災害支援プラットフォーム)の皆さんには、今回の災害発生時から支援をいただいている。改めて感謝したい。先週も災害講座を開いてもらい、復旧の支援策など意見交換もさせていただいた。自治体の取り組みについても意見をいただき、保健師のチームに現地調査に入ってもらえるなどの取り組みに生かしている。

<(学校教育課)No8、27について説明>

(会長)意見提出した(委員)は、今のNo8の説明はどうか。

(委員)よくわかった。

(会長)No27については、車いすの利用者が出前講座に出ていくという取り組みもやっている。このような体験学習など、高齢者向けや、車いすの体験では

子どももある（会長の研究所）。ぜひ活用していただきたい。

（委員）学校を支えるさまざまな取り組みをやっている。困難を抱える方へのアウトリーチに関する研修など行っている。地域のサポーターを登録する制度では唐津は最も登録者が多い。人材活用では使っていただきたい。ヤングケアラーも子ども家庭課の講座があり活用いただいている。

（会長）車いすに子ども乗せると、押すのが大変だったという意見で終わることがある。しかし、大変だったという意見で終わるような体験学習はやめてほしいと思う。病院などの車いすを体験するだけでは「大変だなあ」で終わってしまう。そうではない機能性の車いすもあるので、そういったことも含めて知ってもらう、車いすでも移動しにくいばかりではない、と発展できるような体験の場を考えていくべきである。先ほどの災害時の避難の問題などもそうだろう。

（学校教育課）子どもたちにより、また発達段階により、捉え方は異なるだろうが、我々もいろいろな企業さんなどに出前講座依頼を打診したりしている。不登校・要支援の子も体験活動がきっかけで出てこれるようになるといったことなども意義の一つと考える。

（委員）体験学習は、引率する先生が一人だと目が届かない。畑の作業体験で、先生一人で目が届いてないところで、大きな子が柿の木に登り始めた。それを注意に行ったら、後で先生が生徒をこちらに謝りによこしたことがある。それは違うな、と思う。引率の先生の目が行き渡るように計画してもらいたい。

（学校教育課）安全面の配慮は重要であり、引率指導の人数についても学校に指導しているところ。引き続き行いたい。ご意見ありがとうございました。

<基本目標1について各担当課（事務局）から説明>

（委員）福祉総合相談窓口はできたばかりだが、担当1名では高度で専門的なことに対応できないだろう。福祉関係以外の職員でその窓口を知らないこともよくある。

（事務局）重層的支援体制整備の一環としてできた福祉まるごと相談窓口である。スキルを持った職員でも1名が全てに対応というのはまずもって無理なことであり、窓口が適切な庁内各課に連絡・つなぎをしていく。DX化も含め後日改めて確実に回答したい。支援の幅がより広がるようにしていきたいので引き続きよろしく願いいたします。

（会長）ワンストップ相談については、福祉まるごと相談室に期待しているところ。ぜひ頑張ってもらいたい。その場ですぐ解決できるケースは限られているだろう。必ずお答えすることとして、確実につなぐことでも大きな前進である。

（委員）相談窓口に行く方は、相当の覚悟を持って行く。親身になって対応してもらいたい。また、（早口でなく）ゆっくりと話してほしい。相談を受ける側は切実な願いを持っていると認識して対応してほしい。

- (委員) 窓口に来られない人への対応が今後の課題と思う。子どもの自殺、不登校、虐待など発生件数、相談件数とも増加している。支援にしっかりつながっていけるよう今後ご検討願いたい。
- (委員) 窓口ができて良かったと思っている。今後もよろしく願いたい。職員1名というのは大変だろう、2名3名と増やせるか。窓口の実績はどうか。
- (事務局) 虐待など様々な事案に1名が踏み込んで話すと、結局また専門家が同じことを聞くことになる。この話ならばこの専門部署をつれてくる、といった対応を行っている。中には相談だけで安心いただけることもあり、その場合は職員が話を伺うこともある。一つずつ探りながら、最後はアウトリーチになるのかもしれないが、福祉各課が連携できるように、事例・経験を重ねながら育っていくようにしたい。
- (会長) 担当課といっても職員は3年で部署が変わるだろう。長期にわたりその分野の専門家を育てるという発想はないか。
- (事務局) 課長) 事務職員は2～3年サイクルで異動する。こども家庭課では児童虐待の専門家がいる事例がある。

< (こども家庭課) No10に関連して >

- (こども家庭課) 3月までは子育て支援課で家庭児童相談室があった、これをこども家庭課とし、スタッフには社会福祉士がいる。また専門家として虐待専門員がいる。不登校、虐待、ヤングケアラーなど、課題は複雑にからんでおり、様々な経験から人材育成を続けている。障害支援、保険医療とも連携しながら対応している。こども家庭相談室に保健師などに兼務で来てもらって対応している。
- (会長) 福祉総務課にも社会福祉士資格者がいてほしいし、車いすに関して担当者が2～3年で変わるから、私は毎回指導・説明をやりなおすという苦勞を体験している。福岡県飯塚市では、担当者に10年いてもらう、他へ異動してもサポートしてくれる、という試みをしてきている。専門職を養成するのは、本人のやりがいやプライドにもつながるもので、こども家庭課だけでなく進めてもらいたい。住宅改修の建築などでも。

< No5に関連して >

- (委員) 「福祉を考える会」で福祉員の高齢化の話を耳にしたので、これは重要ではないかと質問した次第である。
- (会長) 免許証返納後の電動補助自転車など、メーカーの開発も進んでいると聞く。動けなくなったら社会に出ないというのが一番まずい。
- (会長) S T S (スペシャルトランスポートシステム)、移動のための車を出してもらうシステムもある。民生委員や福祉員の高齢化、移動の問題であれば有効。
- (会長) 高齢者の力を借りるといえるのは必ず必要になること。若い人もさることながら、高齢者の力をまだまだ引き出してもらうというのは重要ポイント。

移動の機器なども含め、今後の人材育成、サポートが大事という話に集約されるだろう。

(事務局) 民生委員の下に福祉員がいていただく形である。No 5については社会福祉協議会とともに検討していく。

<以下、質問を出した委員の、回答に対するコメント等という進行>

<No 9について>

(委員) 年代別の情報提供手段はお願いしたい。

(事務局) 年配向けガイドブックも、毎年、年代ごとに適した情報提供を検討し、苦労しながら考え続けてきているところである。しかしガイドブック発行イコール情報が行き渡っているとは言えないところである。「福祉を考える会」でも年代ごとの情報提供手段の意見が多く出ており、今後検討していきたい。これは長年の課題でもある。

(会長) 本人に、どの情報提供手段がよいかと確認しながら進めるのもこれから有効ではないか。

<No 10について>

(委員) 事業12の振り返りで、専門職の雇用の回答があるが、専門職をもっと増やす方向で頑張してほしい。

(地域包括支援課長) 令和5年度職員募集の中で、社会福祉士、介護支援専門員の専門職枠の募集も始めている。

<No 11について>

(委員) 連携と協力体制について回答されているのでこれでよい。

<No 13について>

(委員) 担当課とも話ができていたのでこの回答でよい。

<No 14について>

(委員) 私はこの回答でよい。

(委員) 避難について。避難レベルによって対応を「りんく」とも話していると言われたが、2、3時間で景色も変わるほどの災害、当事者は不安がとても大きい。どういった対応が考えられているか。

(事務局) 高齢者はレベル3から避難開始、個人の程度で違うだろうが。保育園ではレベル3というところもある。障がい関係作業所単位で避難、一般の方と同じ避難所より、仕切りがあったほうがいだろうと、具体的に25名の避難所を決めた例もある。災害が目の前に迫っている時ではなく、平時からそういう話し合いを市福祉総務課と一緒に、ご相談いただきたい。

<No18について>

(委員) 住宅改修費の助成については、一步前進したと考えている。

<No19について>

(委員) この回答で一步前進したと考えている。

(高齢者支援課) 介護支援専門員を通じ、またガイドブックでも説明している。活用してもらえればと思う。

<NO24について>

(委員) 別途の回答も受けている。よろしくお願ひしたい。

(地域包括支援課) 佐賀県長寿社会振興財団に活動いただいているところである。

(会長) 今回の災害でもそうだが、ボランティアは大変よろこばれる。今後もよろしくお願ひしたいものである。

(会長) 以上で議事は終了としたい。

(4) 次回開催日程について

(事務局) 10月下旬ないし11月上旬。素案をまとめてからそちらの協議をお願ひしたいので、そのあたりでと考えている。事務局と会長で検討しご案内することよろしいか。

(異議なし)

以上